矢沢地域振興会報

やまぼうし

第 216 号　　令和 7 年 9 月 1 日　　編集・発行　矢沢地域振興会

〒025-0016 花巻市高木 19-24-14 矢沢振興センター内　電話・FAX　２９－５４８０

交通安全落語
第４回　矢沢明朗大学

８月 21 日、47 名の受講生が参加して明朗大学８月講座が開かれました。今回の講座は盛岡交通安全協会・事務局長の佐々木憲親さんの交通安全落語でした。佐々木さんは 40 年間の警察署勤務の経験を踏まえ、交通事故防止のお話や特殊詐欺の実態など巧妙な話術で聴講生のみなさんを納得させていました。最後に落語フアンならずとも一度は聞いたことのある古典落語「死神」を演じ、みなさん楽しいひと時を過ごすことができました。

落語を演ずる佐々木憲親さん

ホワイトボードで横断歩道を渡るときの注意点を説明

明朗大学 第５回講座は移動研修!

期日：１０月３日（金）
〖移動研修 ～ 青森県八戸方面 ～〗
・八戸博物館・根城広場・八食センター
花巻市生涯学習講師：福盛田 弘 さん

＊明朗大学生の参加申し込み期限
９月 10 日（水）電話 23 - 2171

明朗大学 第６回講座は
成島和紙を利用したランプシェード作り!

期日：１０月２４日（金）10 時 00 分～
花巻市生涯学習講師　赤津 有美 さん

只今、10 月の２つの明朗大学講座は、学生のみなさんにはお申込みいただいております。

でき上がった「ランプシェード」は文化祭に展示予定です。

矢沢地区文化祭 みんなの力で芸術の秋を！

開 催 日：11 月 8 日（土）作品展示
11 月 9 日（日）ステージ発表・作品展示
開催会場：矢沢振興センター 講堂・大広間

※ 矢沢地区のみなさんの作品提供、ご来場を心からお待ちしています。詳細については、改めてお知らせいたします。

第 16 回矢沢伝統芸能伝承大会

開 催 日：11 月 16 日（日）13 時～
開催会場：矢沢振興センター 講堂

みなさんのご来場をお待ちしております。

●９月１日は防災の日

・非常持ち出しの備え
・自分の居住地を
ハザードマップで確認

◎ 花巻市議会報告会　議員と話そう！

花巻市議会では、8 月 6 日に矢沢振興センターを会場に報告会を開催しました。報告会は議員 6 名、矢沢地域から 17 名が参加して行われました。始めに「6 月定例会の概要及び常任委員会の活動報告」があり、その後初の試みとして、3 班に分かれてのワークショップ形式での意見交換がありました。共通テーマとして「住み続けたいと思える花巻にするには」として、課題の洗い出し、解決に向けた意見交換が約 1 時間行われ、各班から代表者がまとめを発表しました。3 班の共通課題として、①クマなどの有害鳥獣②農業持続③悪臭対策④公共交通⑤世代間交流がありました。他に医療・福祉・娯楽施設・働く場・地元の良さの見直し等々がありました。
いずれにせよ、参加者のみなさんからは地元を愛し、何とか良い故郷にしたいとの思いが伝わってきました。

ワークショップの場面

救急救命士の活動について

「救急隊は運ぶだけではありません」！！

① 医療行為ができる隊員が乗車しています

救急隊員の中には「救急救命士」という資格を持った隊員が乗車しています。
・点滴処置（静脈路確保）・薬剤投与（アドレナリン・ブドウ糖溶液）・空気の通り道を確保（気道確保）するため、チューブを口の中に入れるなどの医療行為（特定行為）が医師の指示により実施できます。

② 医療行為（特定行為）はどういうもの？

重度傷病者を救うためには、早期に処置を実施することが重要です。医師よりも早期に救護に向かえる救急隊（救急救命士）が現場で医療行為（特定行為）を実施することが命を救うために欠かせないものであり、医学的根拠に基づいた活動です。

お問合せ：**花巻市消防本部警防課　22-6124**

移動図書館（ぎんが号）運行日程

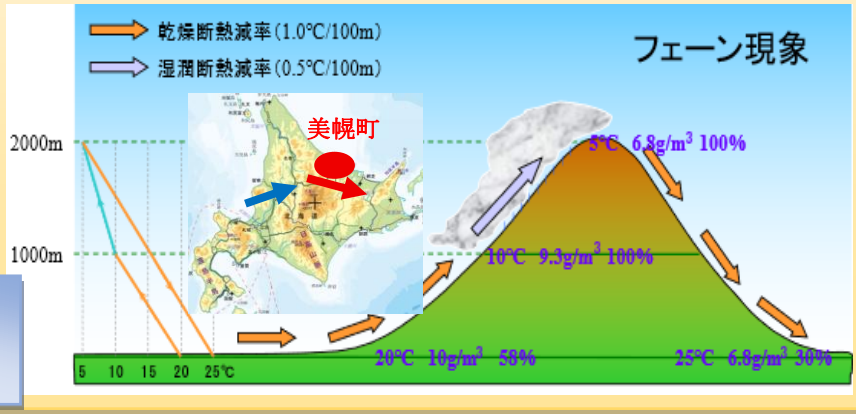
9/4（木）	団地会館	13：40～14：00
9/4（木）	福祉センター	14：15～14：45
9/10（水）	高木観音	09：20～09：50
9/10（水）	振興センター	10：05～10：35
9/10（水）	やさわこども園	10：50～11：20

【事務局員のつぶやき】（記録的な最高気温続出の酷暑の夏！）

今年の夏は各地で記録的な最高気温が続出し、たいへんな思いで過ごしました。夏の最高気温が上昇する要因としていくつかあります。まず言われているのが①地球温暖化による中緯度地帯の大気全体の温度が高いこと。②太平洋高気圧の勢力が強いこと。太平洋高気圧は上空約 6 ㎞までと背が高く、高気圧は西に延び朝鮮半島付近でクジラの尾に似ていることから「クジラの尾型」と言われ、この型になれば全国的に猛暑になり、今年の場合が典型です。③さらに上空約 1 万ｍのチベット高気圧が日本付近まで張り出すこと④これらの要因が重なり、安定した夏型で好天が続き日射が強いこと。⑤日本近海の海面水温が平年より高い状況が続いていること。⑥さらに地形と風向きによってはフエーン現象が重なってより高い気温となることがある。今年の夏はこれらの要因すべてが重なっていると言えそうです。

フエーン現象が重なり高温となった例として、2007 年に破られるまで 74 年間日本記録として残っていた 1933 年 7 月 25 日、山形市の 40.8℃があります。これは太平洋高気圧が強く、一方台風が日本海を進んできたため、気圧の傾きが大きく強い南よりの風が吹きフエーン現象も重なり高温となった事例です。

例年、涼しいことで定評のある北海道東部の網走郡美幌（びほろ）町でも今年の夏は猛暑日が多発し話題となりました。7 月 24 日の 38.3℃（平年差＋13.6℃：フエーン現象）は記録第 1 位で、10 位以内の記録が今年は 6 回も出現しました。ちなみに 2 位に 38.2℃（7 月 23 日）、3 位に 37.3℃（7 月 22 日）、7 位に 36.3℃（7 月 25 日）、8 位に 36.2℃（7 月 21 日）、10 位に 35.6℃（7 月 18 日）となっており、いかに全国的な猛暑であったか、うかがい知ることができます。



右図はフエーン現象の模式図（美幌町は大雪山系の風下にあたり、西よりの風でフエーン現象の影響を受けた）